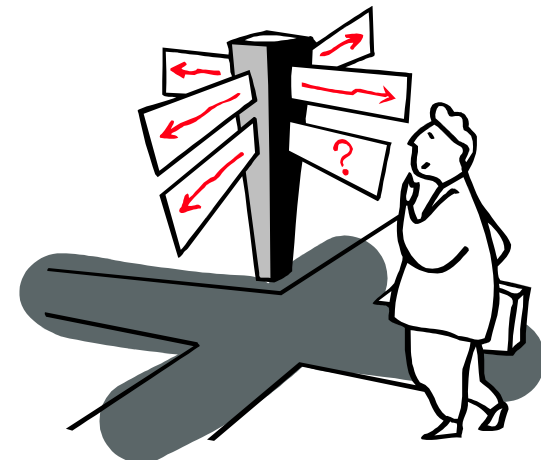


# 田園資源を活用したまちづくり

2014年8月23日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員  
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに  
藻谷浩介      kosuke@motani.com



# 皆さんはどう思いますか？

2

？ 市街地より農地の方が  
ずっと多い新潟市は、都会  
的な魅力の乏しい田舎だ。

？ 市街地より農地の方がずっ  
と多い新潟市は、田舎の  
良さも合わせ持った、とて  
も魅力的な都会だ。

# 地域活性化って何ですか？

3

- ? 交通が便利になることだ。
- ? **暮らしが便利になることだ。**
- ? もっと好景気になることだ。
- ? **若者が戻ってきて、子供が生まれ続けることだ。**
- ? 地域が減びず続くことだ。

# 地域活性化って何ですか？

？ これ以上交通を便利にするよりも

？ **これ以上暮らしを便利にするよりも**

？ 好景気・不景気と騒ぐのでもなく

◎ **若者が戻ってきて、子供が生まれ続けること。**

◎ 水・食料・燃料を確保し続けられる地域になること。

# 新潟市で今起きていること

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

市内在住者(外国人含む)：2010年→20年  $\Delta 2.9$ 万人

100年で人口が3割減るといふ、ゆっくりペースの減少 

90年たたずに現役世代が0人!になるといふ、急速なペースの減少

0-14歳人口の増減:

	↓絶対数	↓増減	
2010年 10万人 → 2020年	<b>9万人</b>	<b><math>\Delta 1.5</math>万人</b>	<b><math>\Delta 15\%</math></b>

15-64歳人口の増減:

	↓絶対数	↓増減	
2010年 52万人 → 2020年	<b>46万人</b>	<b><math>\Delta 6.1</math>万人</b>	<b><math>\Delta 12\%</math></b>

65歳以上の人口:

	↓絶対数	↓増減	
2010年 19万人 → 2020年	<b>24万人</b>	<b>+4.6万人</b>	<b>+25%</b>

↑その中の75歳以上の人口:

	↓絶対数	↓増減	
2010年 10万人 → 2020年	<b>12万人</b>	<b>+2.6万人</b>	<b>+27%</b>

# 首都圏一都三県で今起きていること<sup>6</sup>

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

首都圏内在住者(外国人含む)：2010年→20年 +7万人

増加というよりはほぼ横ばい 

150年少々で現役世代がゼロ! になるという、不意打ちのような減少

0-14歳人口の増減:

		↓絶対数	↓増減	
2010年	4.4百万人→2020年	4.0百万人	△39万人	△9%

15-64歳人口の増減:

		↓絶対数	↓増減	
2010年	23.9百万人→2020年	22.3百万人	△154万人	△6%

65歳以上の人口:

		↓絶対数	↓増減	
2010年	7.3百万人→2020年	9.3百万人	+201万人	+27%

↑その中の75歳以上の人口:

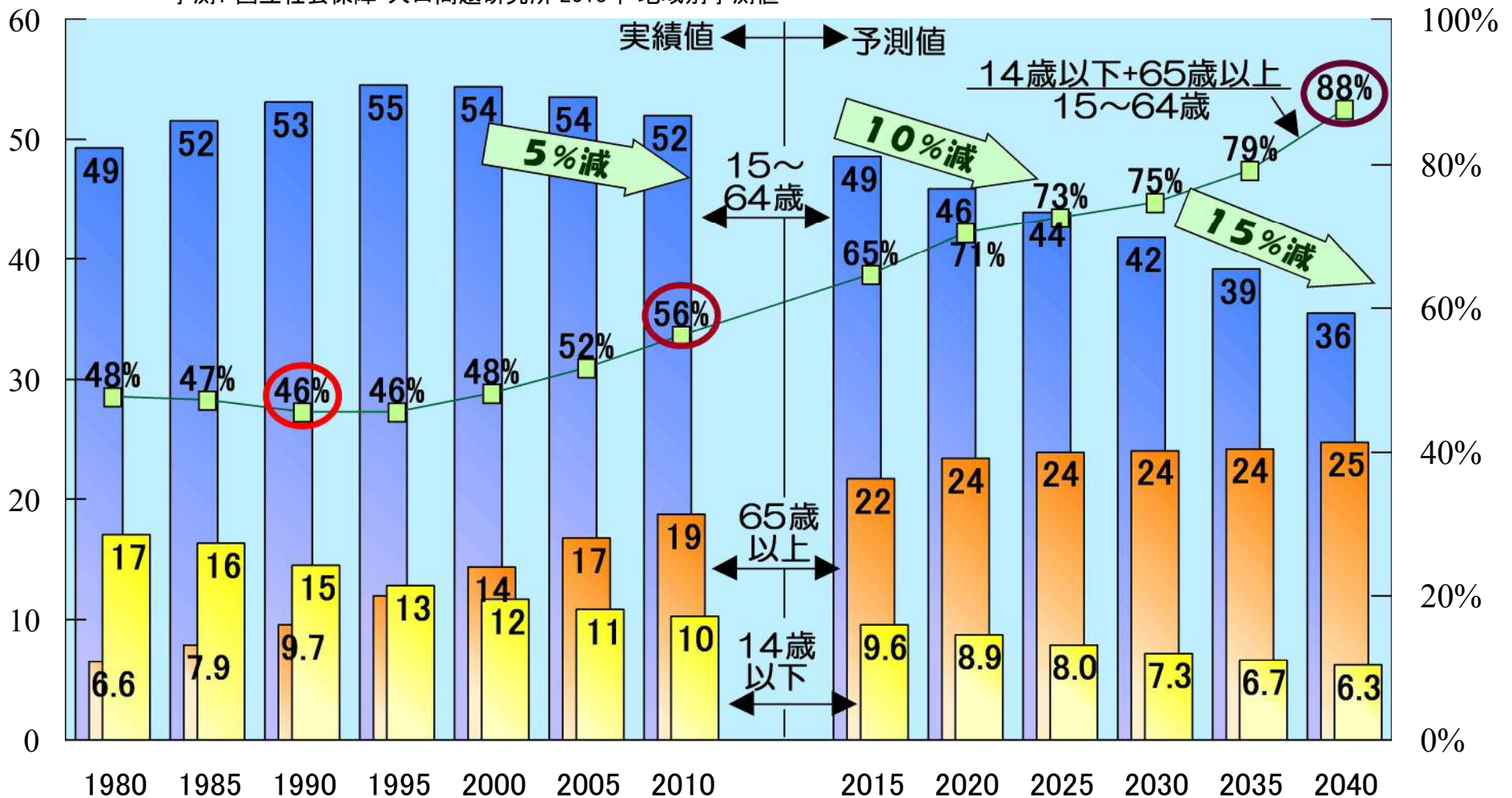
		↓絶対数	↓増減	
2010年	3.2百万人→2020年	4.8百万人	+165万人	+52%

# 高齢者が増え現役は減る新潟市<sup>7</sup>

## 年齢階層別にみた新潟市(現市域)の在住者数 (1980-2040)

万人

実績: 国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)  
 予測: 国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値





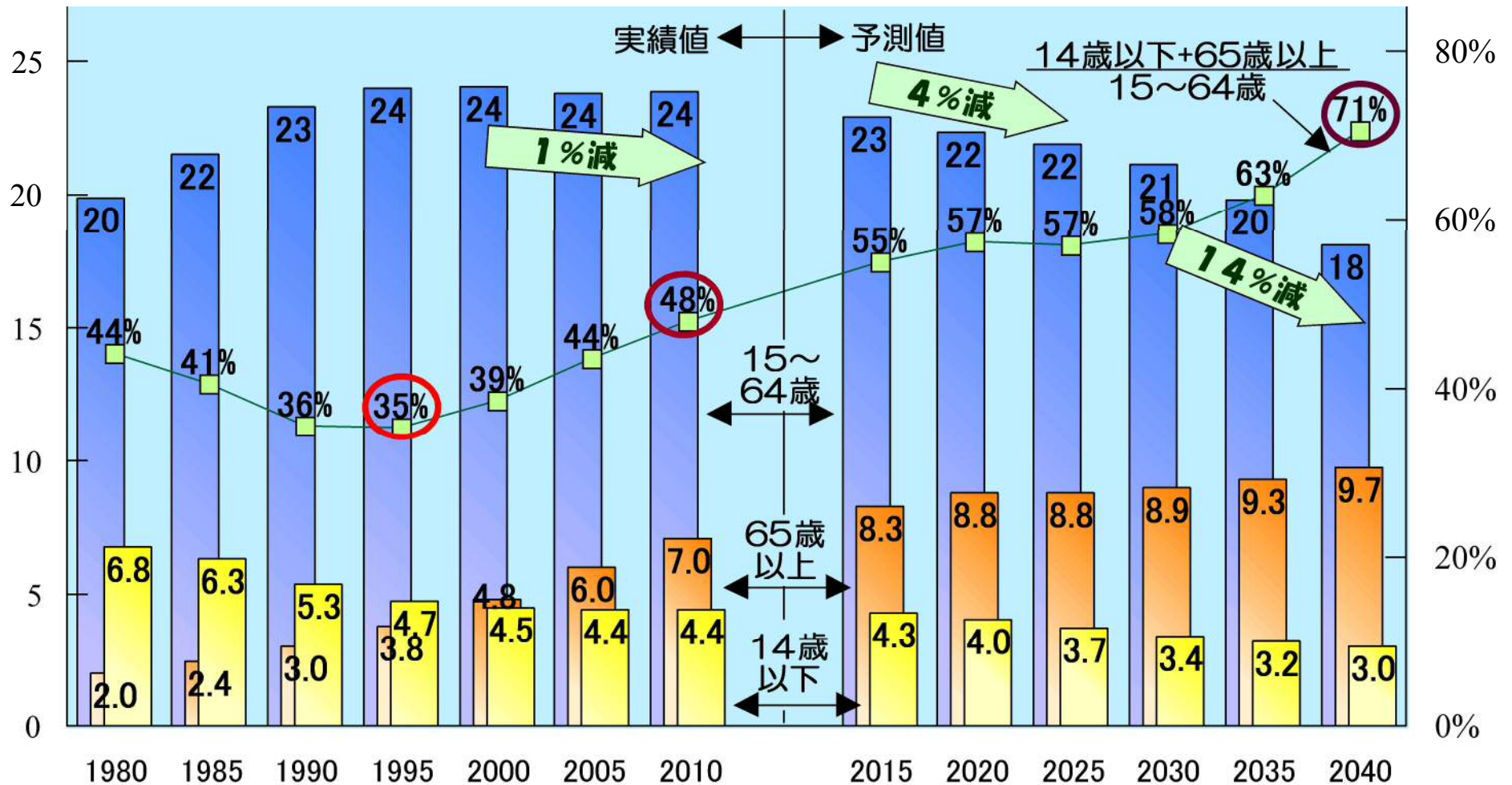
# 高齢者が増え現役は減る首都圏<sup>8</sup>

## 年齢階層別に見た首都圏一都三県の在住者数（1980-2040）

百万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正値)  
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む





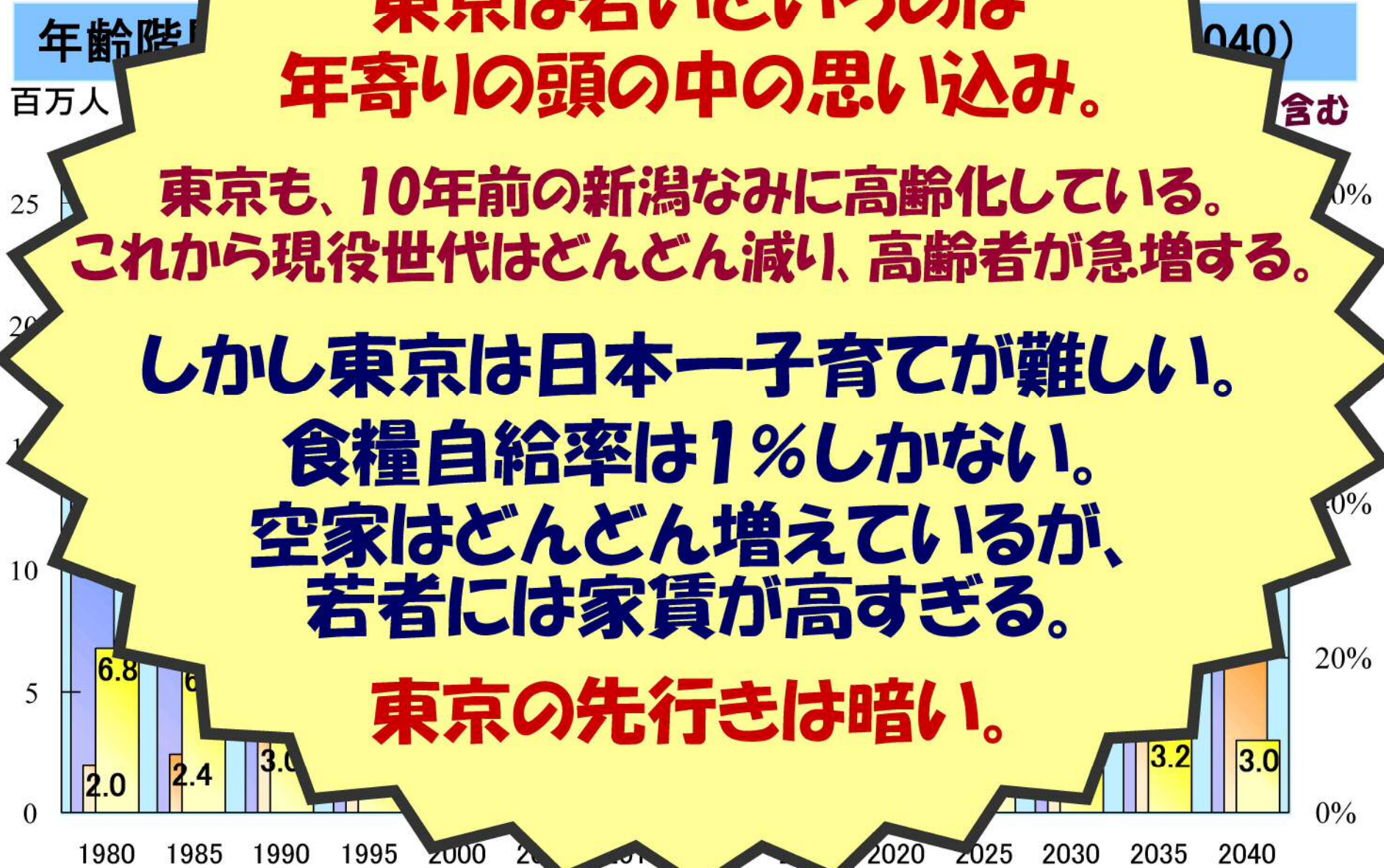
# 高齢者が増加する首都圏<sup>9</sup>

**東京は若いというのは  
年寄りの頭の中の思い込み。**

**東京も、10年前の新潟なみに高齢化している。  
これから現役世代はどんどん減り、高齢者が急増する。**

**しかし東京は日本一子育てが難しい。  
食糧自給率は1%しかない。  
空家はどんどん増えているが、  
若者には家賃が高すぎる。**

**東京の先行きは暗い。**



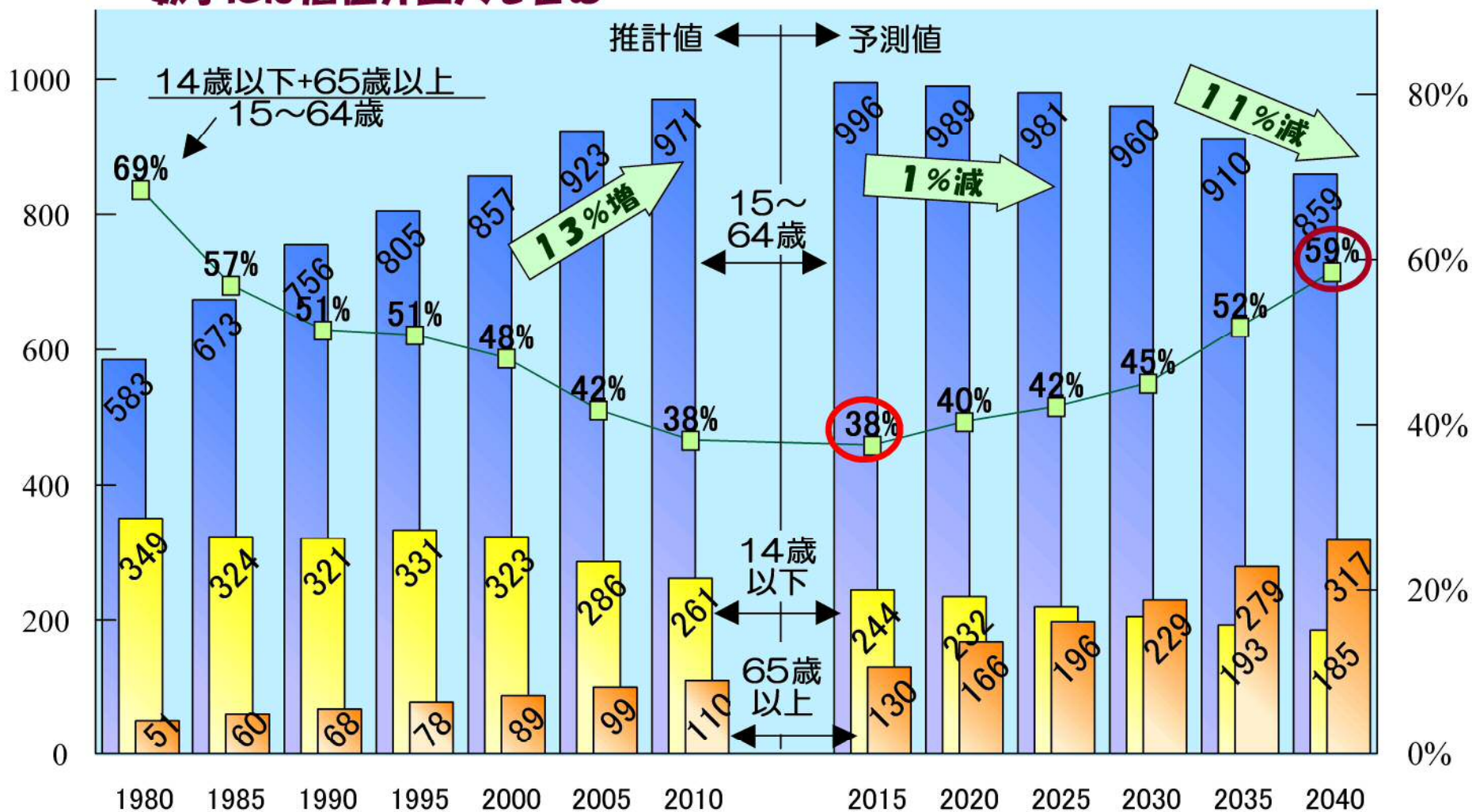
# 高齢者が増え現役は減る中国

## 年齢階層別に見た中国の在住者数 (1980-2040)

百万人

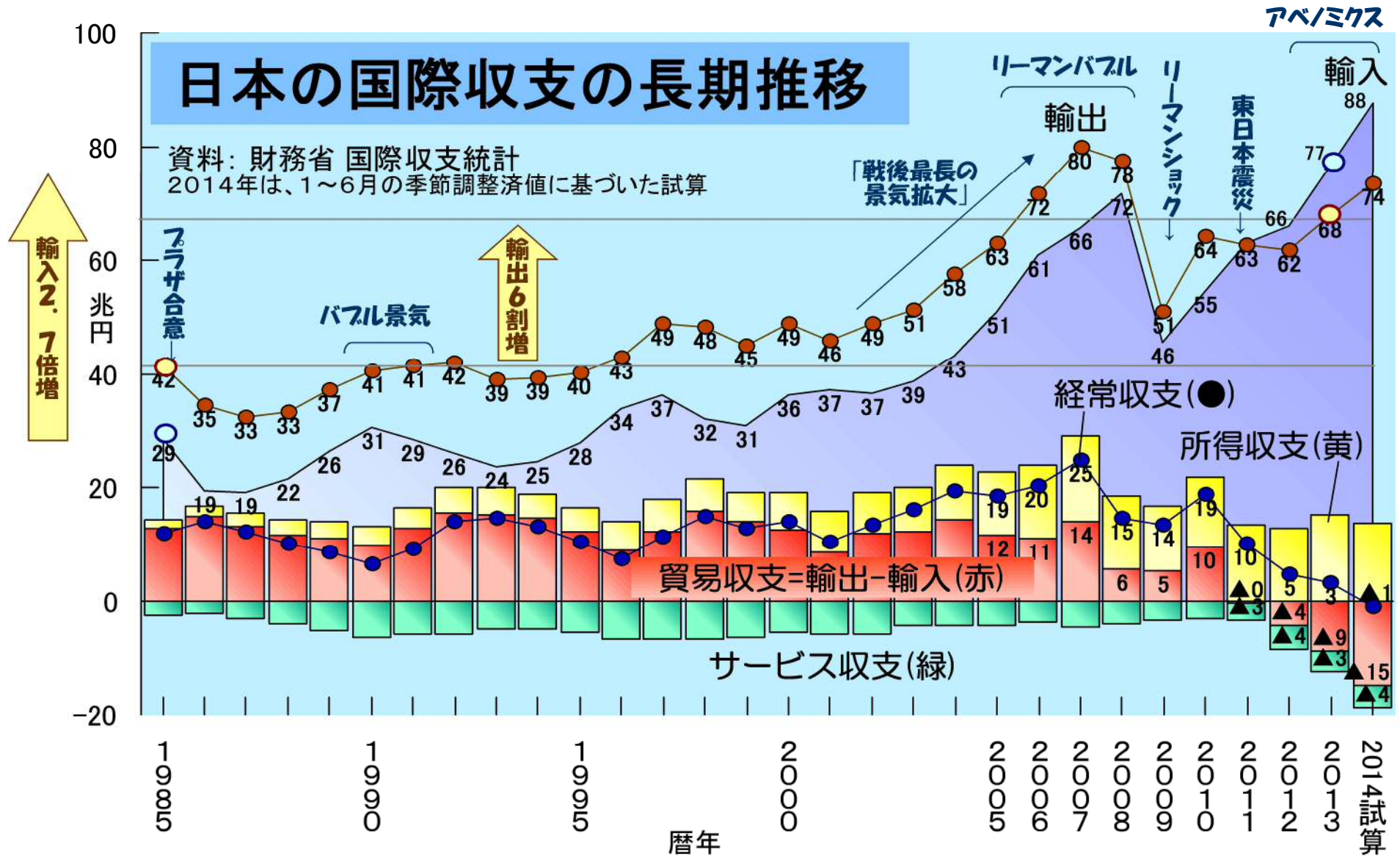
数字には居住外国人を含む

資料: 国際連合人口部 2010年世界人口予測

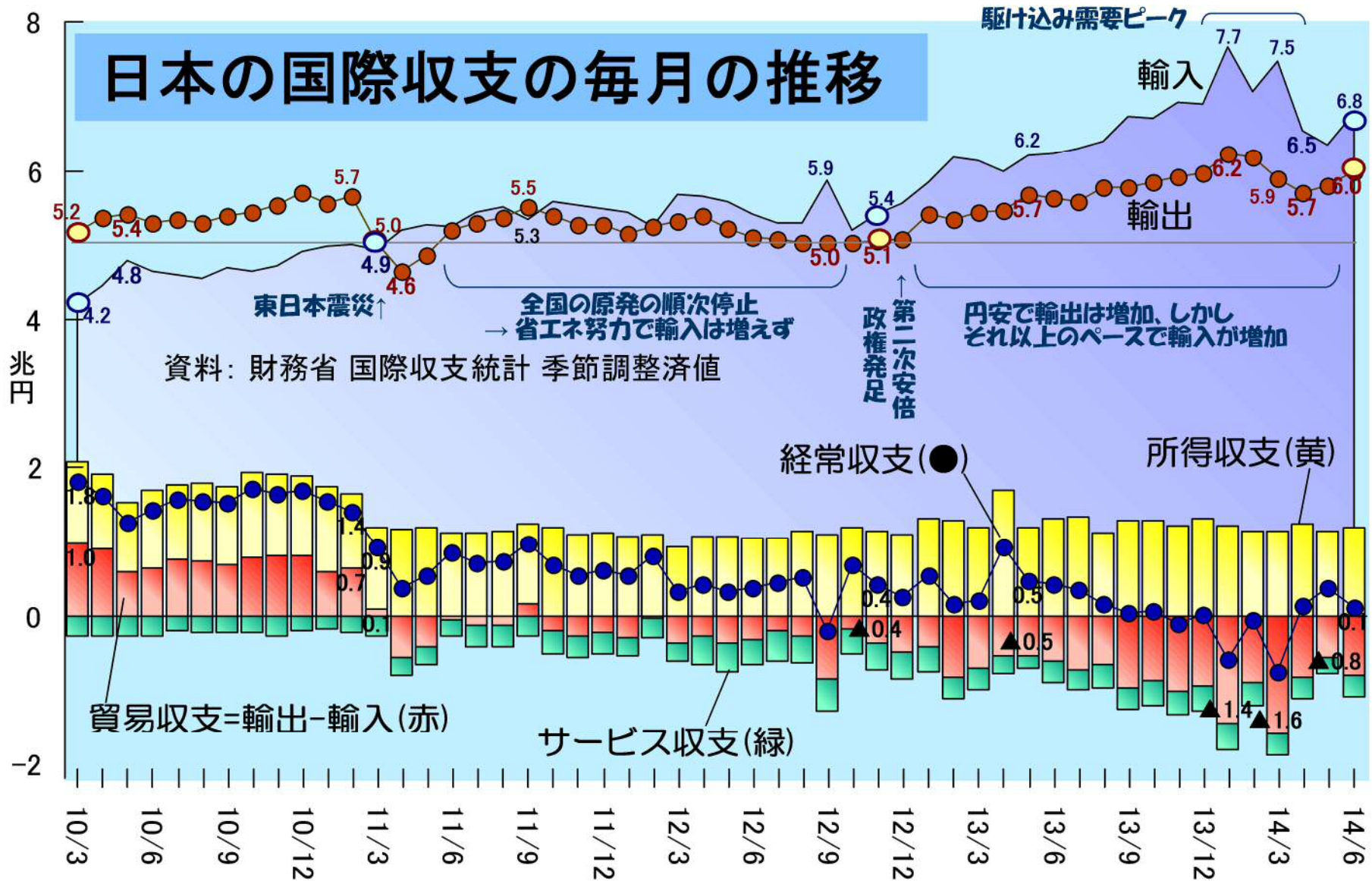




# アベノミクス→円安で貿易赤字拡大 11

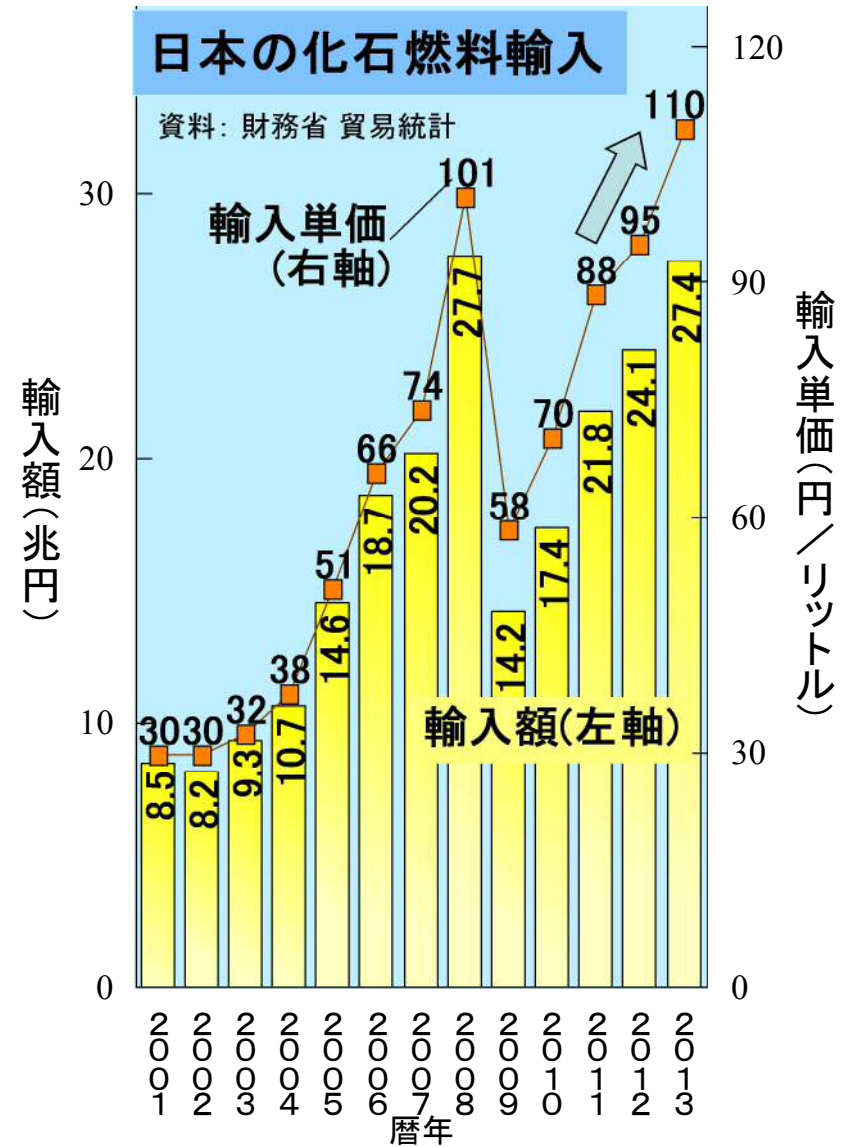
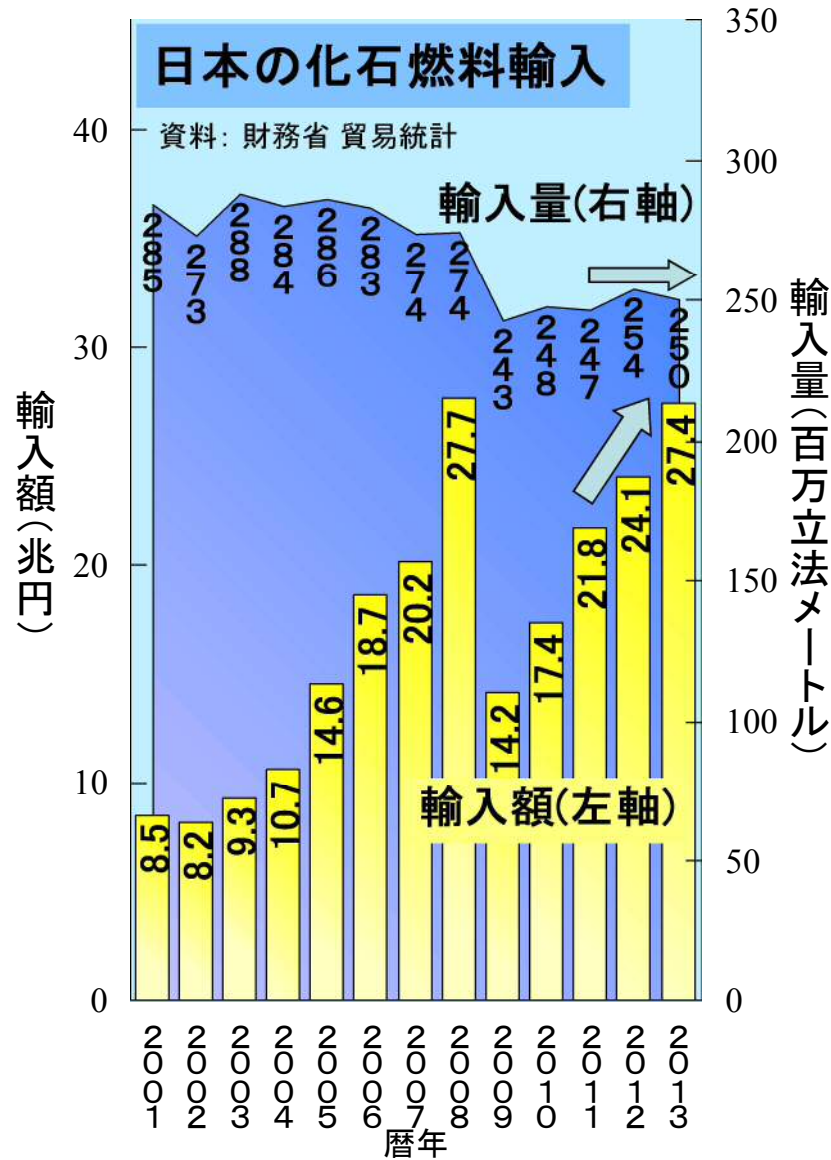


# アヘ"ミクス→円安で貿易赤字拡大 <sup>12</sup>

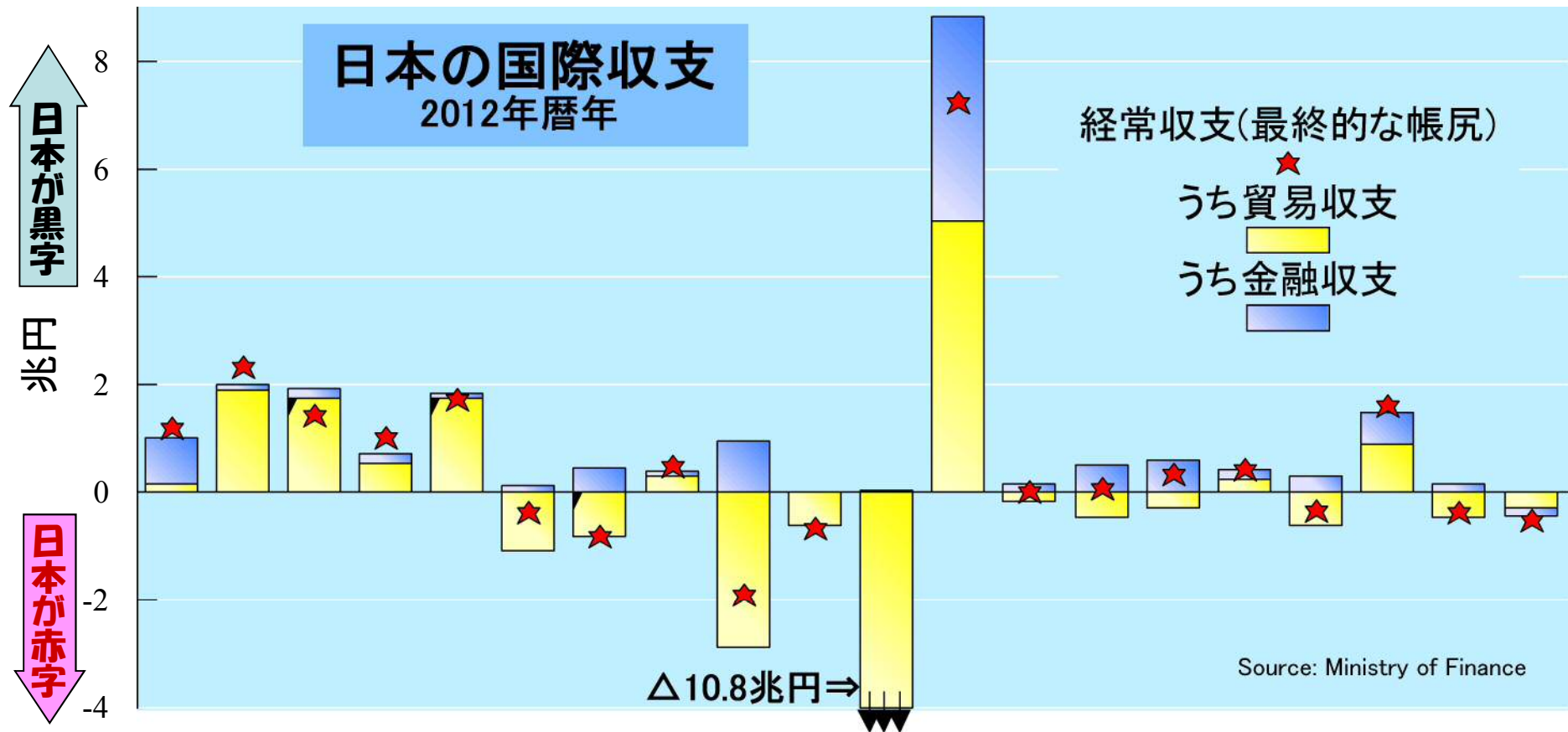




# 化石燃料輸入額増加の原因は 原発停止ではなく、輸入単価の上昇

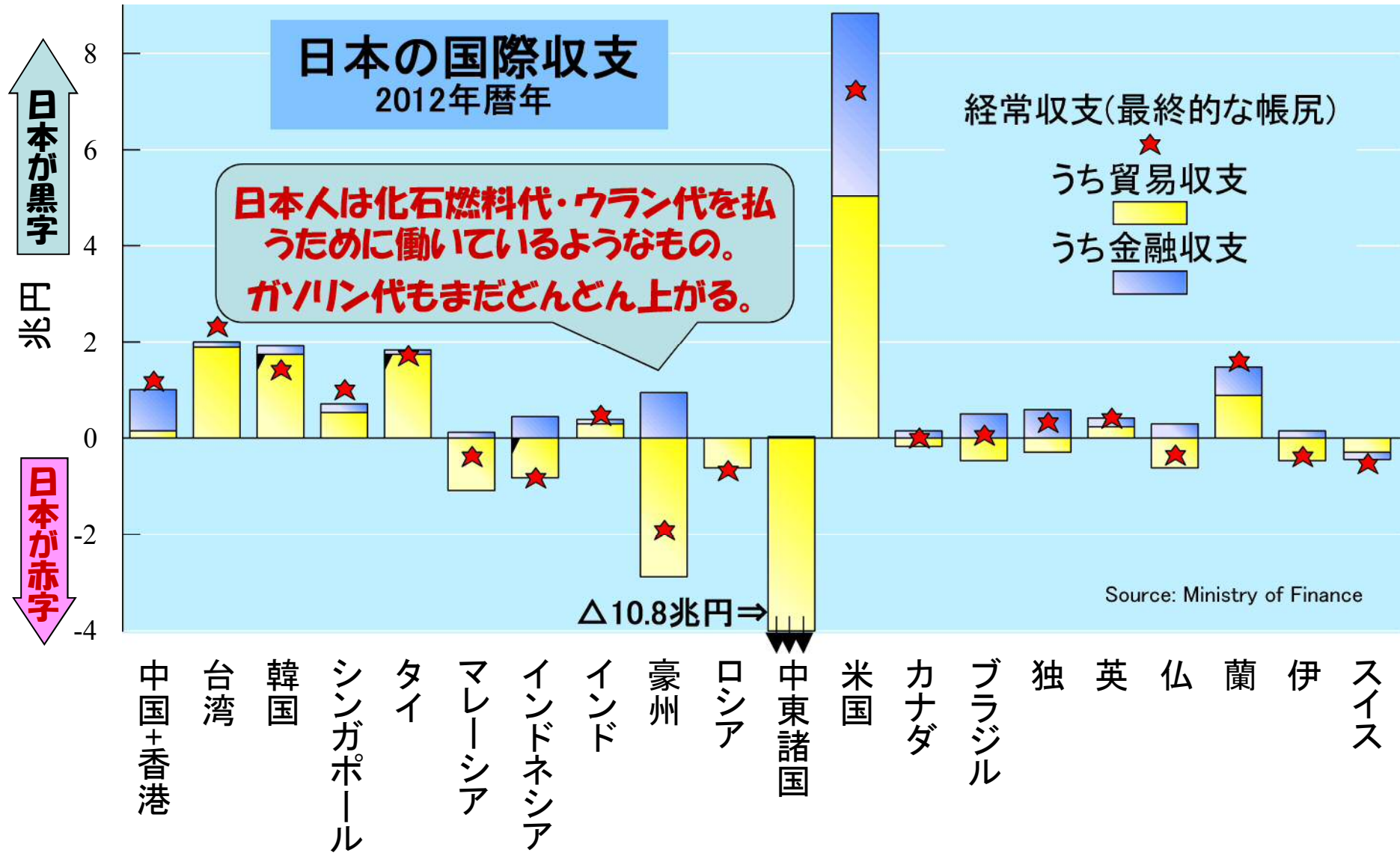


# どこから稼いでどこに貢いでいるのか<sup>14</sup>





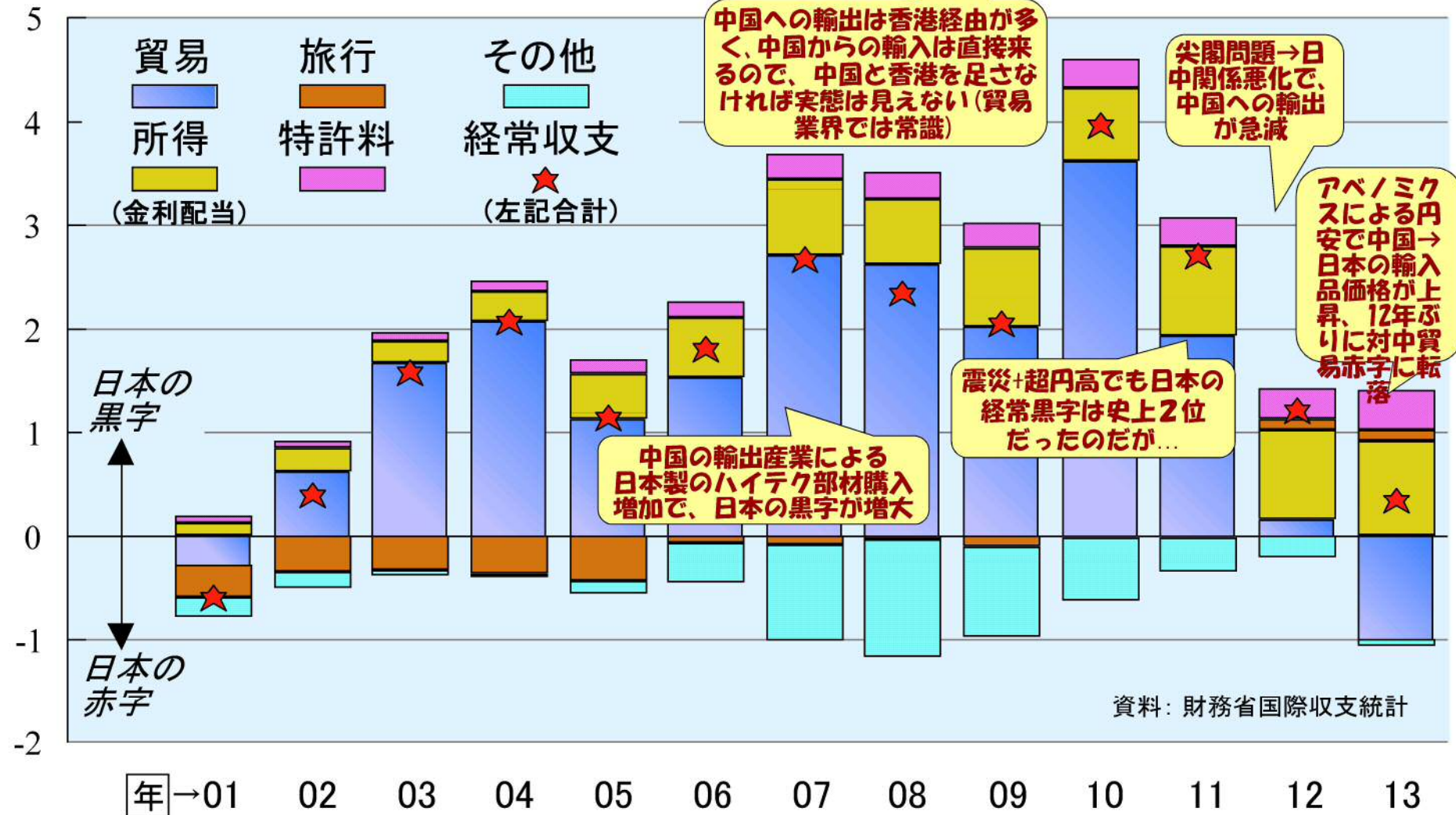
# ハイテクの稼ぎは燃料代でパーに<sup>15</sup>



# 中国の成長で儲かっていた日本<sup>6</sup>

## 日本の国際収支の推移：対 中国+香港

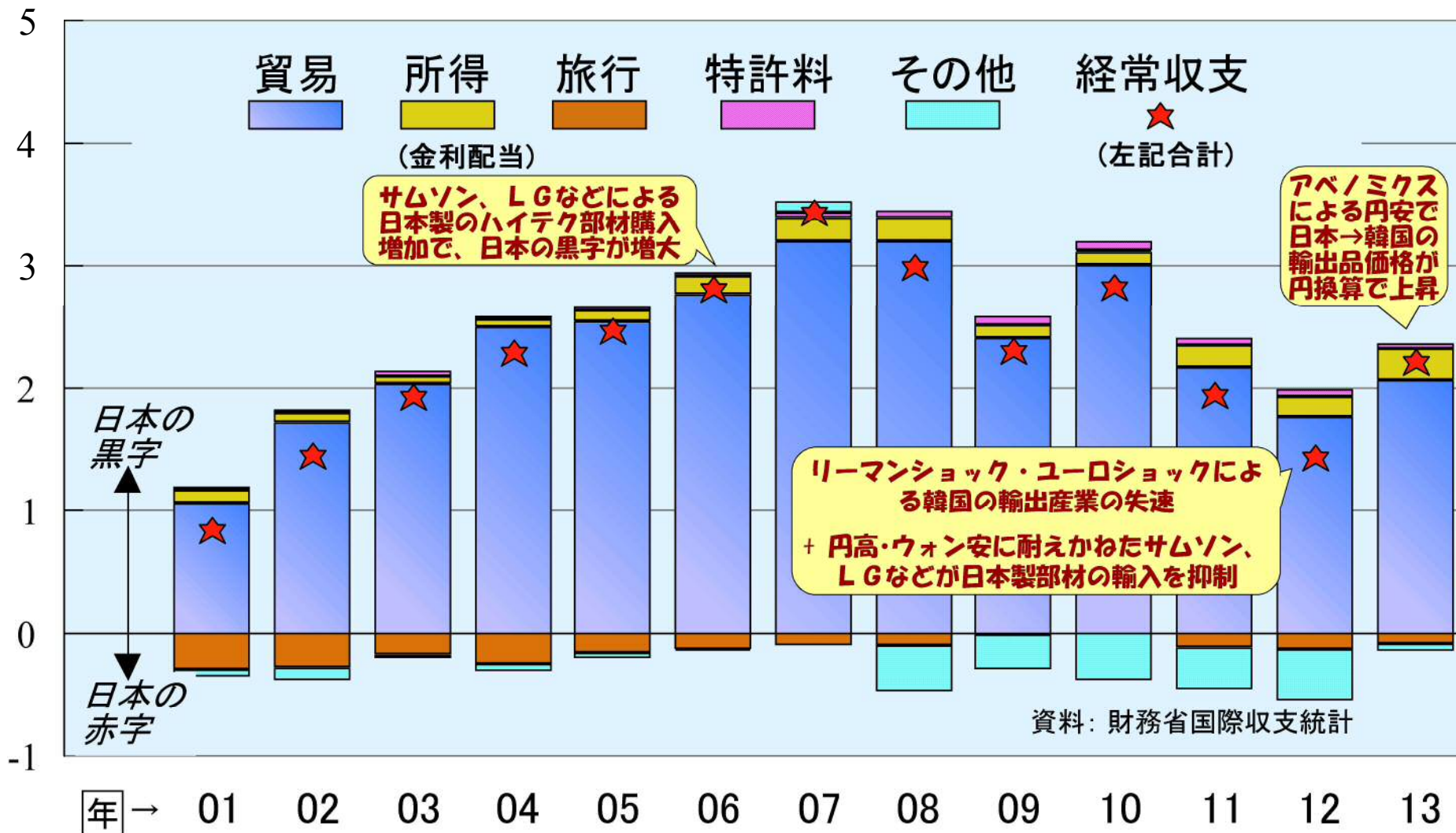
兆円



# 対日貿易赤字の続く韓国

## 日本の国際収支の推移：対韓国

兆円

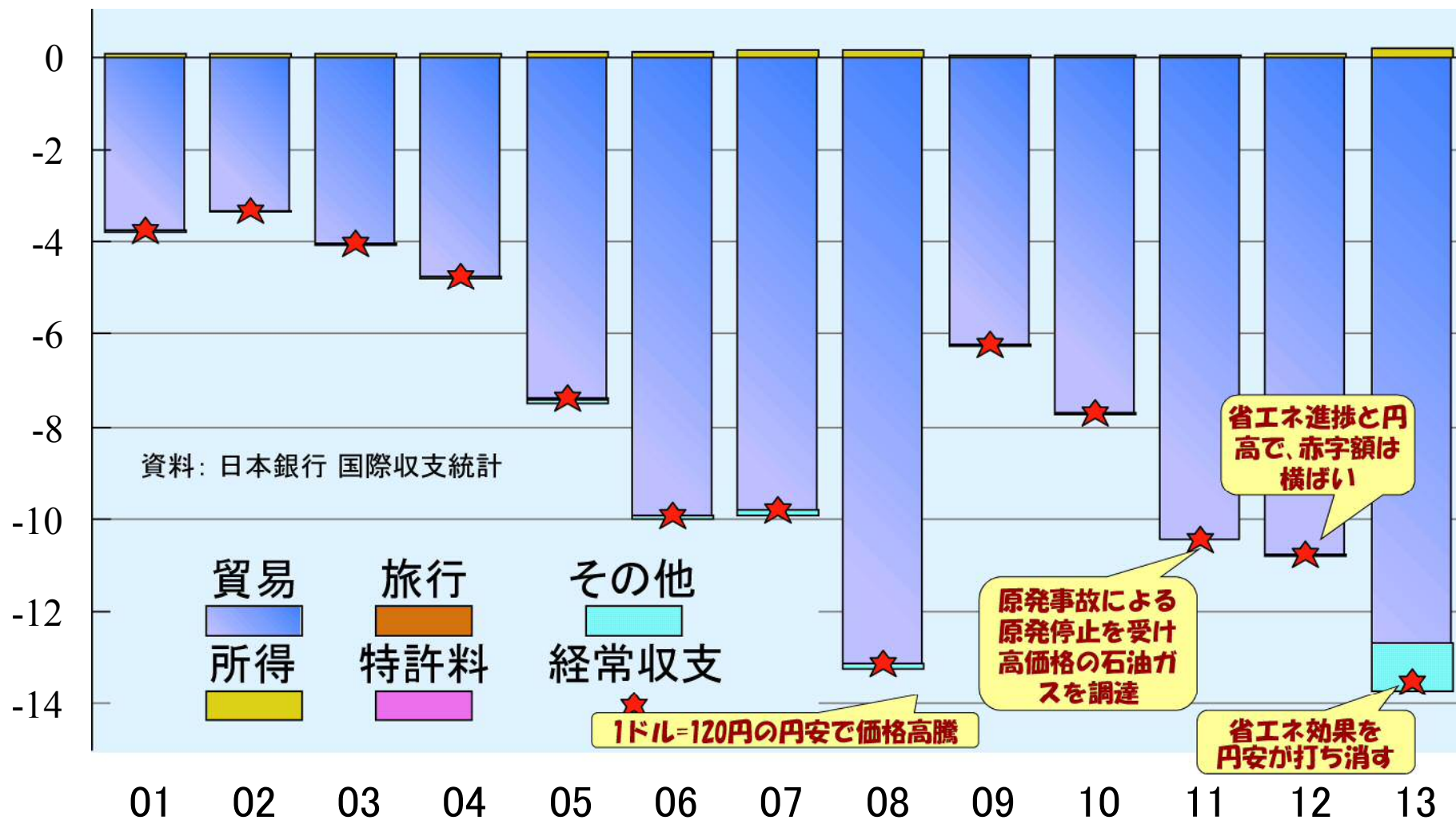




# アジアと米国からの稼ぎは石油代に<sup>18</sup>

## 日本の国際収支の推移：対 中東諸国

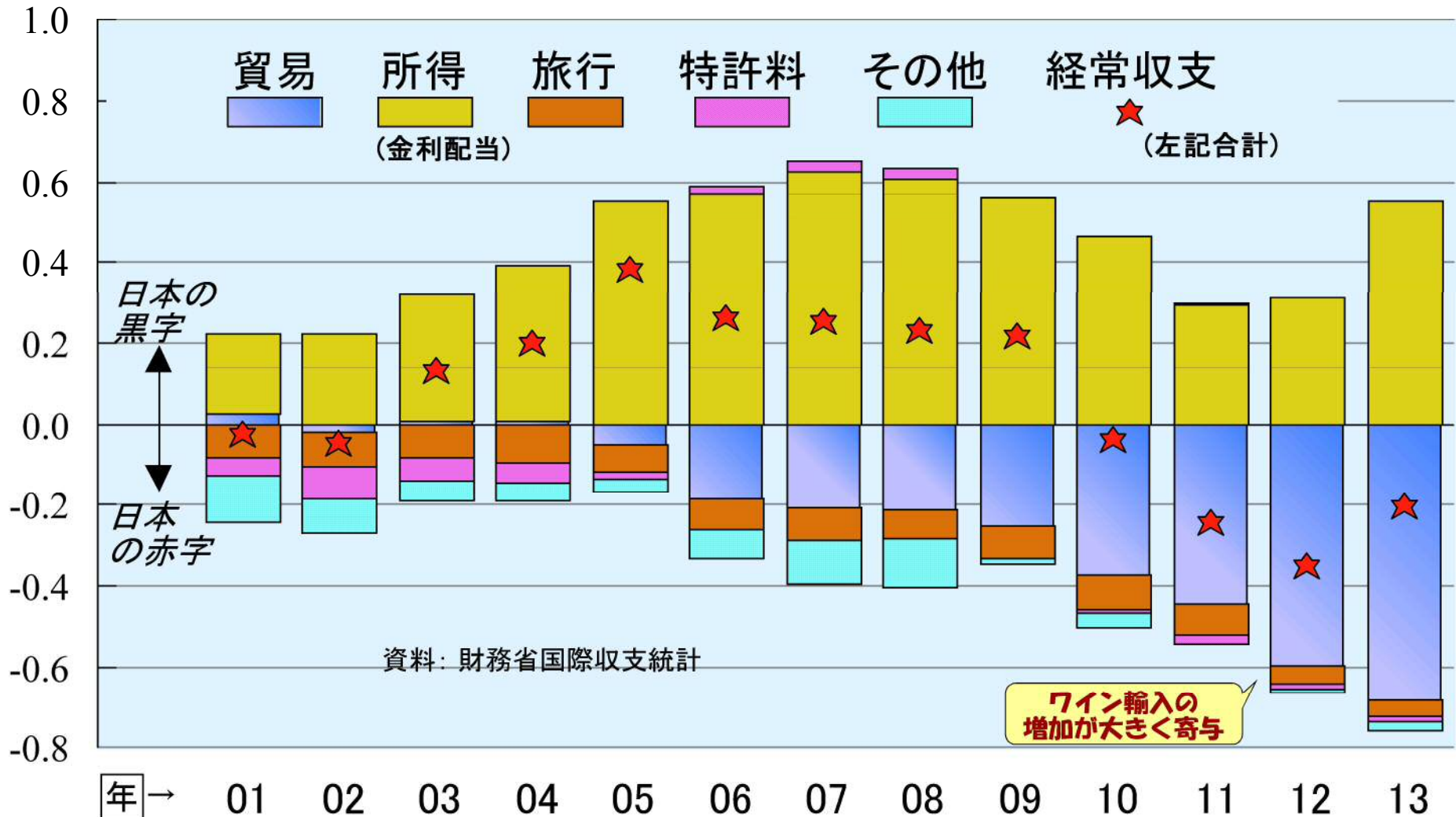
兆円



# ブランド品で対日黒字増大の仏<sup>19</sup>

## 日本の国際収支の推移：対フランス

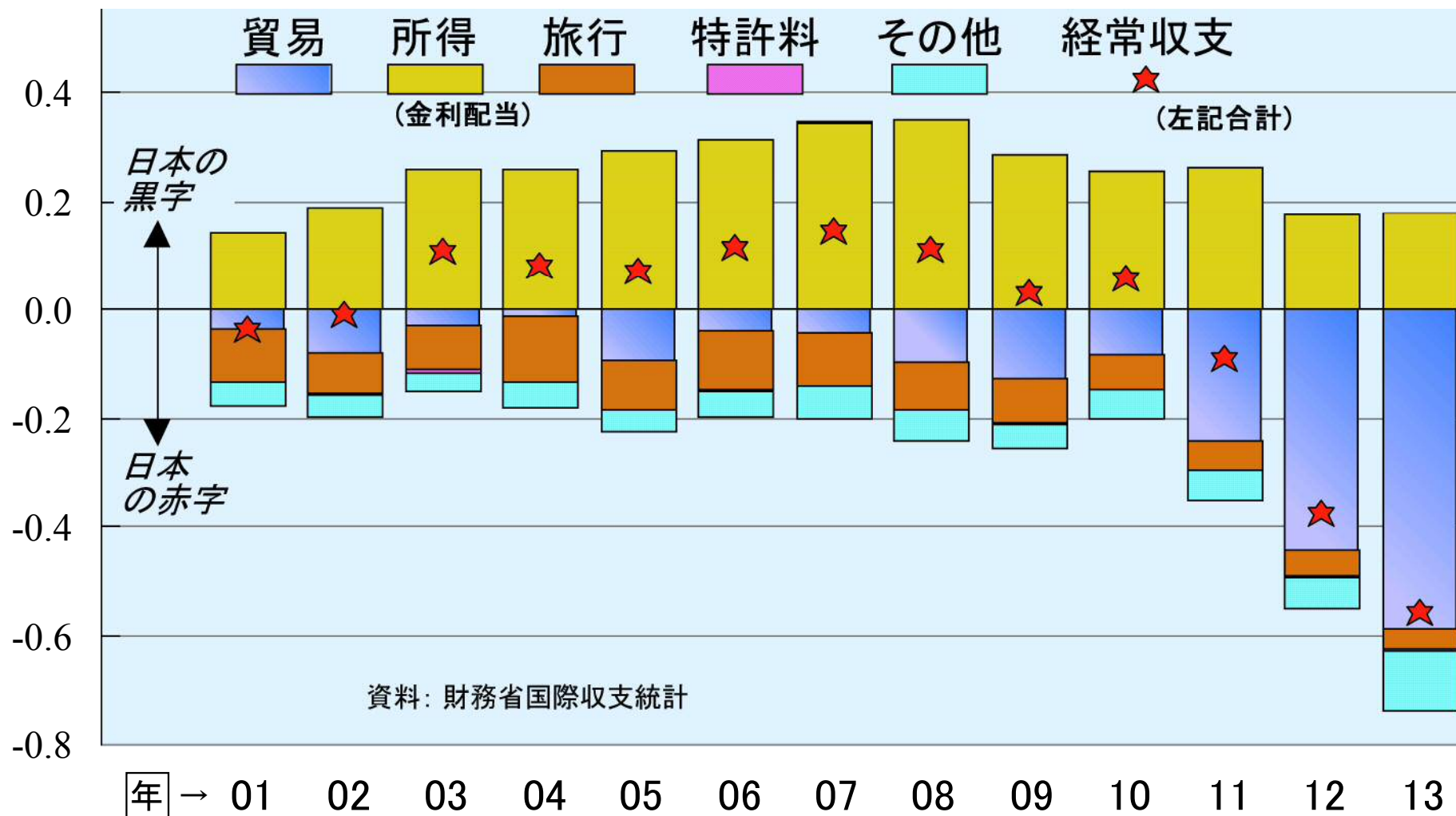
兆円



# ブランド品で対日黒字増大の伊<sup>20</sup>

## 日本の国際収支の推移：対 イタリア

兆円

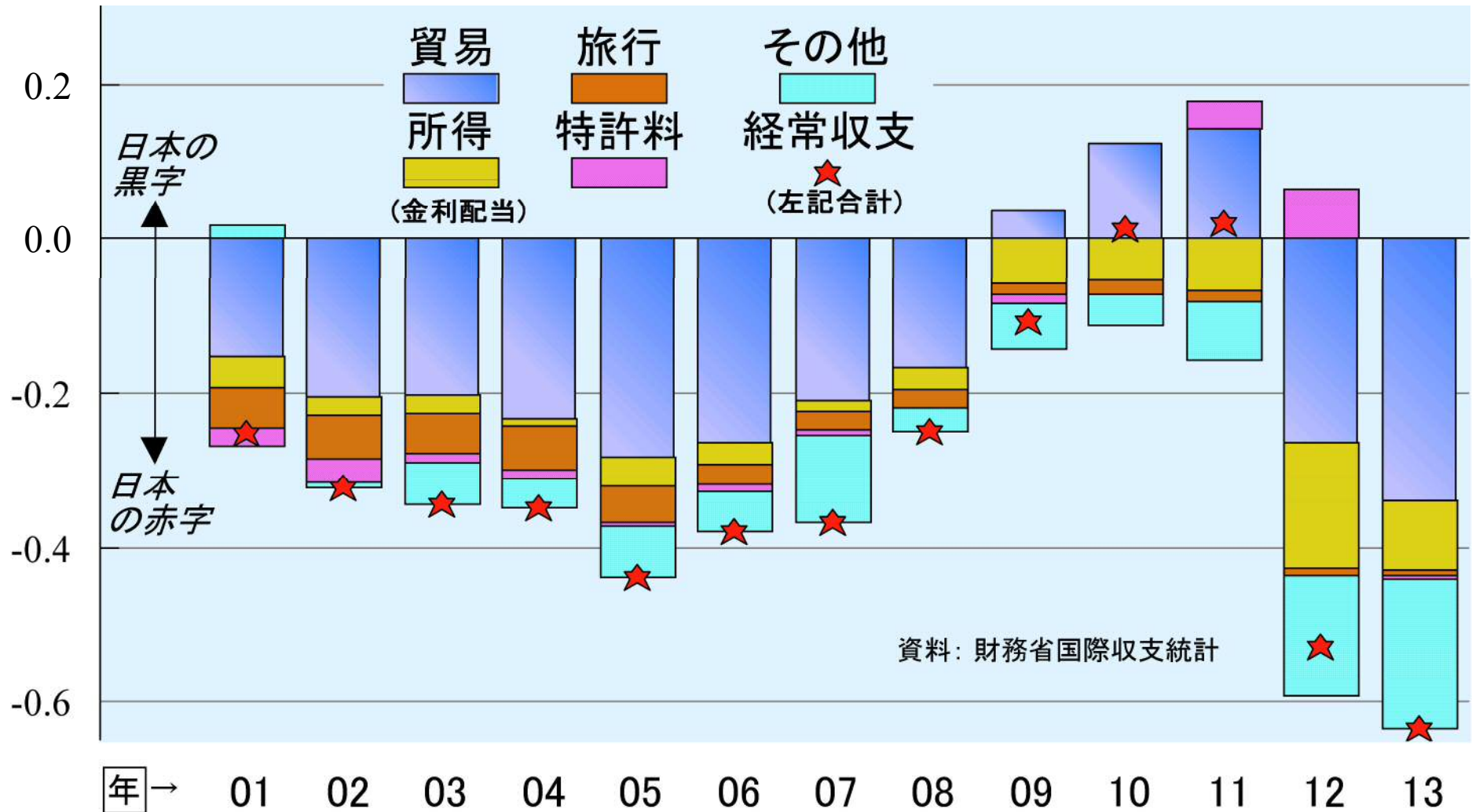




# ブランド品で対日黒字復活のスイス

## 日本の国際収支の推移：対 スイス

兆円



# 日本の「国際競争」の現実

22

- × 日本の国際競争力は、バブル崩壊以降低下の一途。
  - 日本の輸出額は、震災・超円高・ユーロショックの2011年でも、バブル期の1.5倍以上の高水準。
  - × 日本はアジア新興国との競争に負けている。
  - 中国(+香港)、韓国、インド、台湾、シンガポール、米国等に対し、日本は貿易黒字+経常収支黒字。
  - × 円安に戻れば輸出が増えて、日本経済は再生する。
  - 輸入燃料の高騰で、日本の貿易は逆ザヤ。
  - 輸出(=売上)が増えれば増えるほど赤字が増大。
  - 円安に戻すと、燃料代増加で赤字がなお拡大。
- 行き詰まったのは「低価格品大量生産」路線。**

# 日本と各地域の産業の活路

23

× **円安とインフレ誘導によるデフレ脱却と景気回復に期待する**

→ **円安は輸入食材や燃料価格を高騰させるので、経費が上昇し、多くの企業の収益は悪化する**

→ **経費の増加を価格転嫁できない企業には、「インフレ」は単なる経費アップでしかない**

× **誰よりも安い価格を提供し、他が先に価格競争でつぶれていく中で、歯を食いしばって生き残る**

→ **皆がそうすれば地域・業界の全体が赤字に沈む**

○ **客数が減る中で生き残るのは「値上げの天才」のいる地域・企業**

→ **品質重視の客層相手に、十分利ザヤの取れる、ブランドのある商品・サービスを売って生き残る**

# “里山資本主義” とは何か？

24

「マネー資本主義」の欠陥を補うサブシステム (保険)  
← お金を使わない経済も重視 / 地域内循環を重視

**！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源**

①耕作放棄地、②立木、③半端毛/農産品、④退職者、⑤野獣...

**！ でもそれを資本として活かすと、水 / 食料 / 燃料 + αを自給 + 物々交換できる** (←農山漁村では常識ですが...)

① 食糧 + エネルギーの自給率向上で、外に出て行くお金が減る  
② 物々交換で絆が強まる ③ 自給 + 絆で、天災に強い地域となる

**！ 無価値の資源を資本として活かすと、工夫次第で外からもっとお金を稼げ、そのお金を地域内で回せる**

④ エコツーリズムで観光売上が増える ⑤ 地消地産 (= 地元民と観光客が、極力地元産を消費する) で、観光売上が地域内で回る  
⑥ 地元産自然エネルギーを都会に売る ⑦ 若者の雇用が増える

# 「里山資本主義」的地域活性化を<sup>25</sup>

## ① 欧州型の外貨獲得：安さではなくブランドで勝負

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

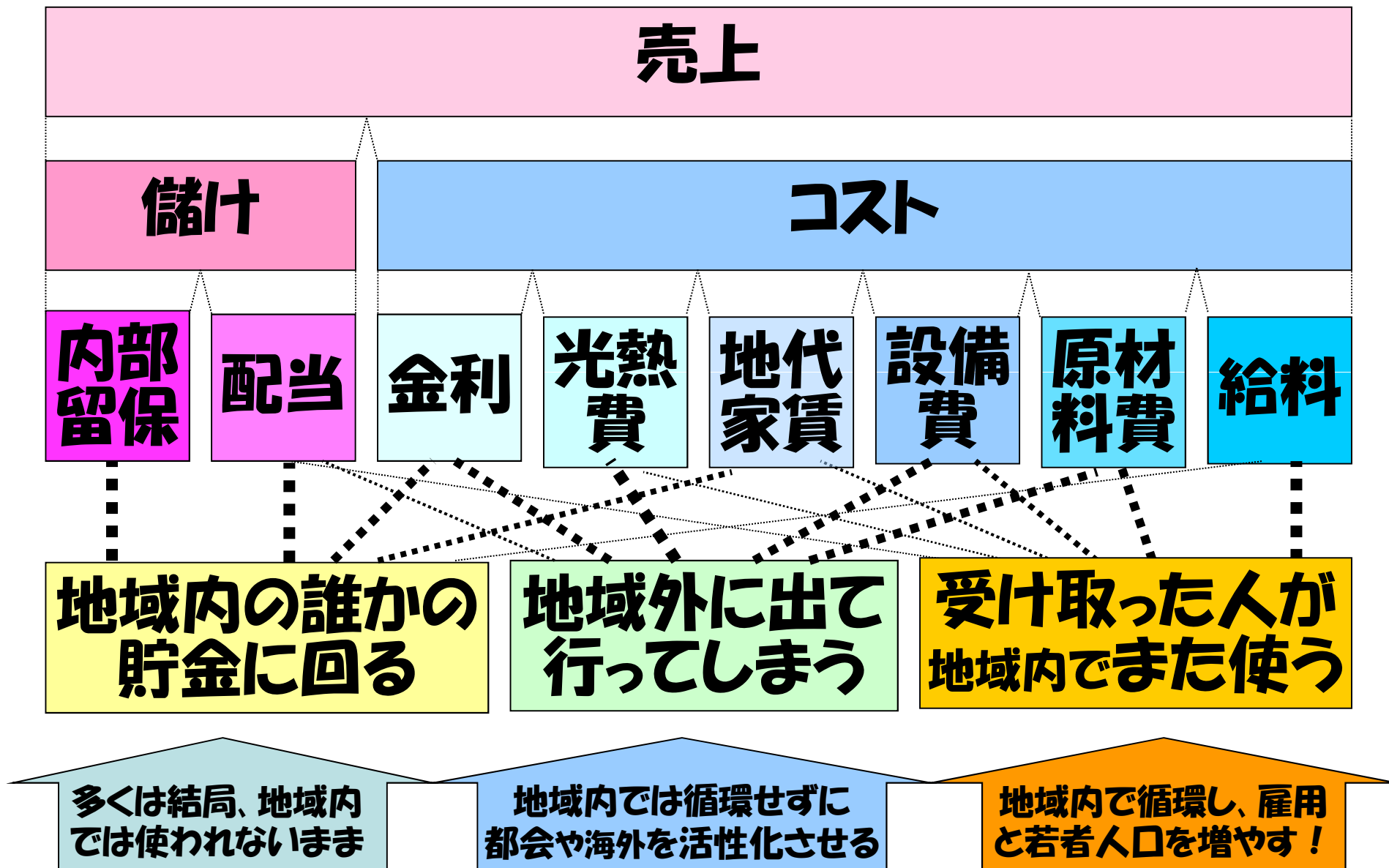
## ② 地域内資金循環の拡大：稼ぎをもっとぐるぐる回す

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し(外からの安物は使わない)、未就労女性や障害者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励する。

## ③ 地域内エネルギー循環の拡大：極力地元産を活用

地域内の建築物には地元産木材を使い、木屑の燃料利用を進める。小水力・風力・地熱 + 廃熱を余さず使う。

# 地域外に出て行くお金を減らそう<sup>26</sup>





# 地域外に出て行くお金を減らそう<sup>27</sup>

